

町小だより

令和6年
6月27日
No. 687
御免町小学校

寛容

校長 相澤 祐助

朝、児童玄関前に立ち、子どもたちの表情を見ながら挨拶をしています。大きな声で挨拶をしてくれる子、声は小さいけれど目で挨拶をする子、ジャンケンをしようとやってくる子、様々です。最近、1年生の子が「ジャンケンをしよう」とたくさん挑んでくれます。「勝ったー」と喜ぶ子、「負けたー」と残念がる子、勝つまで挑み続ける子、などこちらも様々です。結果を受け止めようとする子は増えてきています。

6月11日(火)、12日(水)の2日間、6年生は佐渡に修学旅行へ行ってきました。天候もよく、海も穏やかで、充実した旅行となりました。私も引率し、朱鷺を見たり、砂金取りをしたりと、佐渡ならではの体験を堪能することができました。宿泊したホテルは、ホテル大佐渡(相川)から八幡館(佐和田)となりましたが、落ち着いたたたずまいの素晴らしい宿でした。夕食には恒例の「まるごとカニ1ぴき」が、どんと出てきました。カニを食べるのに挑戦する子がたくさんいました。どうやって食べたらいいいのか、宿の人から教えてもらいながら、美味しそうに食べる姿がありました。

宿の楽しみの一つ、お風呂タイム。私は男子といっしょに入りましたが、湯船にタオルは入れないようにしながら、楽しく一日の疲れをとることができたようです。子どものことですから、当然、「わいわい」「ギャーギャー」と体を洗ったり、湯船につかったりします。他のお客さんもいましたが、皆さん、笑顔でした。「修学旅行ですか。いいですねえ、佐渡の思い出ですね」と私に声をかけてくださった方もいました。

朝、宿を出る時、八幡館のホテルマンの方からこんな話がありました。「当ホテルの常連さんから、『修学旅行の子どもたちと一緒に泊まったことが何度もあったけれど、こんなにマナーがよい小学生は初めてだ』という話を先ほど聞きました。素晴らしい子どもたちですね」というものでした。校長にとってこれ以上の賛辞はありませんでした。

佐渡・両津港から新潟港に向かうジェットフォイルに乗りました。「さあ、出発！」という時に、「エンジンがかかりません。部品の交換をします」というアナウンスが船内に流れました。「えー、いやだー」という声が聞かれるかと思いましたが、子どもたちからは一切そんな声は出てきません。20分ほど待った後で、「ただいま、部品交換が終わりました」「エンジンがかかりましたので、これより出港します！」というアナウンスが船長さんからありました。その時です。「やったー」「わーい」という声とともに大きな拍手をする子どもたち。ジェットフォイルの2階席は歓喜の渦となりました。

出発が遅れたり、自分の意にそぐわない行為があったりすると、「怒り」がこみ上げることが多い昨今です。しかし、町小の子どもたちは、頑張る人を応援し、みんなと一緒に喜びや悲しみを分かち合える、寛容な子どもが多いと思います。そんな子たちだからこそ、周りの大人も寛容な心でつながっていくのでしょ。